



少ない投資で所得向上 —あいち型植物工場の開発—



トマト実証試験の状況

あいち型植物工場実証ハウス
(JAあいち経済連営農支援センター)

(園芸研究部開発)

背景

愛知県は、冬季の日照が多い温暖な気候を活かし、全国にさきがけて施設園芸が発展してきました。建設から年数を経た施設が多い中、農家は現有施設の補修や改修、環境制御機器の導入に高い関心を持っています。

そこで、既存の施設を活用し、実情に即した最適な設備投資を行うことで、コストを抑えつつ飛躍的に生産量を増大させる技術を開発しました。

成果の内容

県内のトマト農家で最も層が厚い中規模経営（20～50a）向けに最適な投資で10a当たり年間40tの生産を実現する栽培システム「あいち型植物工場」を体系化しました。「あいち型植物工場」は、既存のハウスを活用し、二酸化炭素（CO₂）や温度、湿度などの高度な環境制御機能を選択的に追加するものです。さらに、情報通信技術（ICT）を利用することで、産地内の情報が共有され栽培の最適化が可能となります。

愛知県農業への貢献

あいち型植物工場マニュアルを作成し、トマト生産者が適切な設備を導入できるよう情報提供を行っています。

環境制御による収量増大と所得確保を通じて、安定した経営の実現を図っています。

JAあいち経済連・トヨタネ（株）との共同研究です。

(園芸研究部)